

名前:

昨今のインターネットの普及は著しく、眩目に値する。最近では携帯電話下もインターネットのウェブサイトの閲覧は、当然の機能として定着している。これにより多くの人々に支拂され、普及が加速化したのはその有用性に依るところが大きい。24時間いつでも手に入れたい情報を世界中から仕入れることができ、またその情報量も極めて膨大である。しかし、下はインターネットは他の情報媒体よりもあらゆる点で優れていると言えるであろうか。確かに、その利便性という点に関しては圧倒的な優位にあると言っても過言ではない。ところか、その自由度の高さ、簡単に誰でもアクセスできるがゆえのその情報の信ぴょう性の危さ是否定できない。インターネット上の情報は、膨大なだけにどうい、た玉石混じりの状態から正しく信頼に足る情報を選抜するのはある程度の経験が必要とし、難しい。しかし、その点で、新聞や雑誌はどうであろうか。新聞や雑誌の記事を執筆している人達は、

正確な情報を伝達し、世の社会問題を露見させるべく日々進んでいる人々で構成されているはずである。もちろん、これは一部の有名なゴシップ記事ばかりを載せている雑誌と異なっている点ではあるが、こういう執筆者は、多くの取材を重ねて、し、かりその情報の裏付けを取、てから記事にするわけだから、盲目的に信頼してもあまり問題はない。こうい、た意味で、つまり情報の正確さという意味で新聞や雑誌もいくらインターネット時代といえ、接した物ではない。とは言え、新聞や雑誌の記事に多く誤りがある、と断言しているわけでもない。言葉による齟齬も生じる可能性もあるであろうし、熱意に欠ける記者が十分な証拠もなしに状況証拠だけで書いた記事もあるかもしれない。だが、なるべく多くの媒体から情報を得た方が、情報の比較検討ができ、情報の確実性が増す。また、その方が容易に情報の改ざんができるインターネットのみを使用するよりもはるかに安べできる。

1800字

これらの理由から、今日のインターネット社会においても雑誌や新聞は、大いに有用である
と考える。